

■ 新入会員卓話

宇井 敏之 会員「信用金庫とは」

● 銀行との違い

銀行は、株式会社組織の営利法人であり、取引顧客に制限はありません。一方、信用金庫は、地域の方々の相互扶助を目的とした協同組織金融機関です。営業地域は一定地域に限定されます。

信用金庫のお客様（会員資格）は信用金庫法に基づき、法人の場合は従業員 300 人以下または資本金 9 億円以下と定められています。

上記の制限を超え大きく成長した企業は、信用金庫からの融資が受けられなくなる、このような企業は俗に「卒業生」と呼ばれます。業界の中には、会員資格の資本金上限 9 億円の拡大を求める声もあるが、こうした制度制約は「地域の中小企業や個人に対する安定した資金供給を通じて地域社会の発展に貢献する」という、独自の役割発揮を社会から期待されているために定められたわけであり、安易な拡大主義の考え方は、信用金庫本来の思想性、使命を薄めるもので、制度制約を緩和し、単に業務拡大だけを目指す信金は銀行へ転換すべきという考え方もあります。（平成 3 年に東京の八千代信用金庫が八千代銀行に転換）



● 信用金庫の再編

このように地域に密着した金融機関として定着してきた信用金庫であったが、平成 2 年頃から合併が目立つようになりました。千葉県も平成 2 年以前は 11 金庫ありましたが、現在は 5 金庫となっています。（千葉、銚子、東京ベイ、館山、佐原）

現在全国に 267 の信用金庫が存在し全体で 100 兆円を超える資金を運用し、地元の中小企業に 60 兆円強の融資をしています。しかし全国信用金庫の 1 金庫あたりの平均預金残高は 4, 941 億円、貸出金は 2, 464 億円と個々の規模は小さいものです。その中で地方銀行と肩を並べる大規模信用金庫も存在しています。

全国信用金庫預金量ランキング（2015 年 3 月末現在）

- 1 位京都中央信用金庫（京都府） 預金量 4 兆 2924 億円
- 2 位城南信用金庫（東京都） 預金量 3 兆 5053 億円
- 3 位岡崎信用金庫（愛知県） 預金量 2 兆 7492 億円
- 4 位埼玉懸信用金庫（埼玉県） 預金量 2 兆 5479 億円

33 位千葉信用金庫（千葉県） 預金量 1 兆 114 億円

● 千葉信用金庫の歩み

千葉信用金庫は大正 13 年 6 月 4 日に千葉市千葉 1183 番地（現千葉県教育会館隣）にて営業を開始しました。当時の日本は株式暴落、銀行の取付け騒ぎなどが発生し不況の波は産業界から農村におよび、大正 11 年だけでも 3 万 5, 000 戸の農家が離村した、さらに大正 12 年に関東大震災が直撃我が国は未曾有の試練にたたされていました。

千葉市においても金融の逼迫は著しく、新たな中小企業制度による施策が熱望されていた。そこで大震災の秋ごろから開業医で市議員でもあった武本為訓氏を中心とする市内の有志が信用組合の設立を提唱し、翌年 4 月に有限責任千葉信用組合の設立が許可され開業に至った。初代組合長は武本為訓、専務理事柴田太重朗、理事高瀬茂兵衛、能勢鉄之助、宮原奥治郎、鈴木直太郎、監事小川善次郎、布施五兵衛、秋山孫兵衛 1 でありました。その後 昭和 6 年満州事変の勃発から第 2 次世界大戦と戦いが続き、昭和 20 年 7 月 7 日未明、千葉市が大空襲をうけ当金庫も金庫室を除く一切が焼けるという甚大な損害を被りましたが、翌日には市内吾妻町 3 丁目の小川四郎宅を仮事務所として業務を継続しました。昭和 26 年 6 月、信用金庫法が公布施行され、当組合は千葉信用金庫と名称変更しました。千葉信用金庫は平成 10 年に両総使用金庫と合併し、その後平成 14 年に木更津信用金庫、成田信用金庫と合併し、現在千葉市、市原市、袖ケ浦市、木更津市、船橋市、習志野市、成田市、東金市に全 49 の店舗を展開しています。

● 信用金庫の強み

1. 信金中央金庫とのつながり

信金中央金庫は全国の信用金庫を会員とする共同組織形態の金融機関で信用金庫の中央機関として、昭和 25 年に設立され、平成 12 年には優先出資証券を東京証券取引所に上場しています。

主な業務は

- ①信用金庫の余裕資産の効率運用及び信用金庫間の資金の需給調整
- ②信用金庫間の決済期間
- ③信用金庫の業務機能の補完

2. 地域との密着

信用金庫は徹底した地元密着型の営業を行っています。営業マンはバイク交通手段とし、定期積金の集金を今でも行っています。この営業スタイルにより、お客様と親近感を持ち堅固な顧客基盤を有しています。

● 信用金庫の弱み

1. 人口の減少による過疎化

信用金庫は県内のそれぞれの地区にて営業を行っており、目的は「地元で集めた資金を、地元中小企業に融資し地域社会の発展に寄与する」という事だが、近年の高齢化による、過疎化は営業地域が一定地域に限定され、他地域に出荷できない信用金庫にとっては非常に大きな問題といえます。（千葉信用金庫は東京での営業は出来ない。）

2. 若年層の信金離れ

定期積金を中心にお客様宅に直接訪問していた営業スタイル「Face to Face」は、近年の家庭環境の変化（共働き）によりその必要性が薄れてきました、元来個々に規模が小さい信用金庫では、若者向けの商品開発やマスコミを通じた情報発信には限界があります。

ちなみに千葉信用金庫の預金取引は 80% が個人預金を占め、その内 68.7% は 50 歳以上という状況です。

● これからの信用金庫

現在政府は、「日本再興戦略」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」などに基づき、地域経済の活性化や中小企業の成長支援に注力しています。信用金庫はこうした政府の施策に応え、より一層地域に密着した営業活動により、地産地消による地域の基盤強化を図り、地域の課題解決を通じて中小企業の経営改善し、成長に貢献